

鍋校区防災計画

基本方針：安心・安全な地域づくりを目指して



令和5年3月

鍋校区自主防災会

1. 地区の概要

(1) 地区の特徴

①地区の範囲

熊本県玉名市鍋校区

②地区の社会特性

- ・人口：2527 人
- ・世帯数：1100 世帯

岱明町は玉名市の北西部から南西部に位置し、荒尾市および長洲町と接している。北部は小岱山を有し、南部は有明海に面しているため、基本的に北に向かうに連れて高台となっている。河川は長洲町との境を流れる行末川、線路に沿うように流れる友田川、滑石地区や小島地区との境を流れる境川が代表的である。

岱明町南部地区(高道校区・鍋校区)は国道501号線が東西に横断しており、交通量は多い。田園風景が広がり、トマト等の野菜の栽培も盛んである。また、水産業も行われており、複数の漁港を有している。扇崎地域には寛政4年に起こった『寛政津波』の供養塔として、扇崎千人塚供養塔が建てられている。

③岱明南部地区の災害リスク

○洪水

行末川、境川を有しており、川沿いや低い土地では浸水想定区域が指定されている。

○土砂災害

国道501号線より南側は基本的に平坦なため、土砂災害のリスクは少ない。

鍋保育所の北側に気急傾斜地の特別警戒区域に指定されている地区が存在する。

○高潮・津波災害

有明海と面しているため、津波のリスクが高い。また、行末川境川を津波が溯上し、川沿いや低い土地では浸水想定区域が指定されている。

○地震災害

直下型マグニチュード 6.9 の地震が起きたと仮定した場合、国道より南側では震度 6 強、その他の地域では震度 6 弱から 6 強の揺れが予想される。

家屋の倒壊、建物火災等が想定される。

島原半島での火山噴火及び有明海での地震が発生した際には津波も予想される。

○その他の地理的要因

清正公馬つなぎの棕付近は木々が多いので災害時、倒木に注意する。

国道を横断する南北の道は本数が少なく、道幅もあまり広くないため、避難の際に混雑する可能性がある。

(2) 今後想定される災害

災害種別	想 定	対 策
洪水	浸水想定地域において、道路・家屋等の浸水が想定される。	浸水想定区域にお住まいの人は、警戒レベルに応じて避難を行う。
土砂災害	土砂災害（特別）警戒区域において、急傾斜地の崩壊・地	土砂災害警戒情報の把握、土砂災害（特別）警戒区域内の住人は警戒レベルに応じて避難を行う。
高潮	浸水想定地域において、道路・家屋等の浸水が想定される。	浸水想定区域の住人は、警戒レベルに応じて避難を行う。避難を行う際には、隣近所にも声をかける。
地震	家屋の倒壊や火災、道路・橋等の損害が想定される。	火災防止のためガスの元栓、電気のブレーカーを落とす。
津波	浸水想定地域において、道路・家屋等の浸水が想定される。	浸水想定区域の住人は、警戒レベルに応じて避難を行う。避難を行う際には、隣近所にも声をかける。
台風	台風が九州の西岸に接近して北上、又は西岸に上陸後九州を縦断する場合、有明海沿岸では高潮災害の可能性も高くなる。 一方、九州の東側を進む場合は、大雨による災害が発生しやすくなる。	台風情報の把握。明るいうちから早めの避難を心がける。

【参考】 岱明町の過去の災害

災害名称及び 災害発生年月日	災害による被害状況と当時の状況
寛政津波 寛政 3 年	地震による眉山の崩壊により津波が発生、玉名郡内で 2,221 人が死亡した。
大正 3 年潮害 大正 3 年	台風により高潮が発生、大潮の満潮時刻と重なり、異常な潮位となった。鍋の潮受け堤防が決壊し、浸水、家屋の流失が起こった。
昭和 2 年潮害 昭和 2 年	大正 3 年潮害と同一の原因により、高潮が発生。玉名平野の潮受け堤防が三十九か所に渡って決壊した。
七・二六水害 昭和 3 2 年 7 月	大雨により友田川堤防が 6m に渡って決壊、床上浸水 250 戸、床下浸水 301 戸。鍋の大正開では 20ha の稲が全滅した。
熊本地震 平成 2 8 年 4 月	4 月 1 4 日よりの前震に始まり、同月 1 6 日未明には本震が発生、玉名市では震度 6 弱を 2 回記録した。

2. 防災活動

(1) 活動目標

豪雨・台風・高潮災害時は早めの避難を声掛け、避難誘導、避難の支援を実施して逃げ遅れゼロを目指す。地震災害時は、発災直後から速やかに安否確認等を実施して、住民の命を守る。

(2) 活動体制

別添資料

- ・岱明南部地区防災マップ
- ・玉名市総合防災マップ

(3) 中長期的な活動目標と課題

項 目	具体的内容	実施時期
役員不足の解消	・消防団退職者及び防災士を地域リーダーとした活動を進める。 ・男女を問わず若い人を役員とした活動を実施する。	長期計画
高齢化への対応	・避難する際の声掛けを実施する。 ・避難する際の協力体制をつくる。	長期計画
災害備蓄予算	・必要最低限での購入計画を作成する。 ・個人備蓄の購入を促進する。	毎年度計画
訓練への取り組み	(年間を通じた訓練及び研修の実施) ・校区及び地区行事に合わせた計画を作成する。 ・校区及び地区独自の計画を作成する。 ・外部から講師を招き、研修を行う。	毎年度計画
マイタイムラインの普及	・マイタイムライン(個人の防災計画)の作成支援を行う。 ・外部から講師を招き、研修を行う。	毎年度計画

3. 防災関係施設

(1) 避難所

類 別	施設名	住 所	避難所開設者	電話番号
一次避難所	岱明防災コミュニティセンター	岱明町中土 980-1		
指定避難所	岱明中央公園グラウンド	岱明町中土 556		TEL57-3396
				TEL

(2) 関連機関・施設の連絡先

類 別	施設名	住 所	電話番号
市町村	玉名市役所（代表）	玉名市岩崎 163	TEL 75-1111
	玉名市 防災安全課	玉名市岩崎 163	TEL 75-1130
医療機関			TEL
消防署（119番）	有明広域消防本部	玉名市築地 309-1	TEL
警察（110番）	玉名警察署	玉名市岩崎 51	TEL 74-0110
電気			TEL
ガス			TEL
水道			TEL

(3) 保有防災資機材リスト

物 品	数 量	保管場所	備 考

4. 地区防災タイムライン

●鍋校地区自主防災会タイムライン（水害版）

警戒レベル	気象庁が発表	鍋校地区自主防災組織	住民	玉名市
5	大雨特別警報 氾濫発生情報	安全な場所での待機 避難所での支援	緊急安全確保 (命を守る行動)	避難所運営 災害対応 情報収集、住民周知
4	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報 高潮警報	避難所運営 避難者確認(逃げ遅れ防止)	安全な場所を除く住民は避難	避難所運営 情報収集、住民周知
3	大雨警報 洪水警報 氾濫警戒情報	避難所開設 要避難者避難呼びかけ支援 家庭ごとの避難場所確認	高齢者等避難 要配慮者等早期避難 危険箇所居住者の避難	避難所開設 情報収集、住民周知
2	大雨注意報 洪水注意報 氾濫注意情報	情報収集 活動確認(連絡網)	テレビ、ラジオ、インターネット等により情報収集 避難準備開始	情報収集 職員注意喚起 各機関との調整
1	早期注意情報	ニュース等での情報収集 備蓄品の確認 ハザードマップの再確認	ニュース等での情報収集 備蓄品の確認 ハザードマップの再確認	事前情報収集

●鍋校地区自主防災組織タイムライン（地震版）※震度6弱以上を想定

	経過時間	一般的な出来事	鍋校地区自主防災会	住民	玉名市
初動対応	発災直後	地震発生 建物倒壊、出火が始まる 停電、断水、ガスが止まる	自己安全確保 周囲の状況確認 安否確認(救出活動) 火災時の初期消火活動	安全確保 状況確認 ガスの元栓・電気のブレーカーの確認	災害対策(警戒) 本部設置 状況把握 情報収集
	1時間まで	救命救急活動 火災が拡大 二次災害の呼びかけ	緊急救護各堂 状況把握 避難誘導	緊急避難所への避難	災害対応 関係機関連絡・ 応援要請 避難所運営
応急対応	6時間まで	被害の中心地や範囲が判明	応援要請	地域内での支援	災害対応 各機関との調整
	1日まで	自衛隊が到着	避難所運営(炊き出し等)	地域内での支援	災害対応 各機関との調整
	3日まで	広域火災が鎮火、停電解消 ボランティア支援開始 生き埋めなどの生存低下	地域活動連携	地域内での支援	各機関との調整
復旧期	2週間まで	行方不明者の捜索完了 仮設住宅の建設 水道やガスの復旧	地域活動		各機関との調整 担当課ごとの対応
復興期	1か月後	仮設住宅入居開始			担当課対応

●鍋校区タイムライン（高潮）

